

インタビュー：常磐自動車道の整備を実感

常磐自動車道（以下、常磐道）は、東日本大震災を契機に加速度的に整備が進められ、東日本大震災により未曾有の被害を受けた本県の災害派遣・救援物資輸送の支援、建設資材の輸送を迅速化し、復旧・復興を強く後押ししたことにより、生活再建や地域経済の復活などに大きく貢献してきました。

常磐道は、首都圏を起点に太平洋沿岸の各都市を経由し仙台市に至る国土の骨格を形成する極めて重要な高速幹線道路であり、東北自動車道と合わせ、2つの強力な縦軸による高速道路のダブルネットワークを形成することで、東日本の産業経済の発展に大きく寄与することはもとより、災害時や冬期の円滑な交通の確保など防災道路として機能しています。

また、観光面では、常磐道の全線開通により関東地方からのアクセス性が向上したことで、沿線の山元町、亘理町の観光客数が震災前を大幅に上回るなど、交流人口の増加に大きく寄与しています。医療面においても、緊急搬送時間の短縮により、救命率が向上するなど、まさに「命の道」として機能しています。

さらに、本県では、仙台都市圏を囲む環状自動車専用道路「ぐるっと都・仙台」に、常磐道及び三陸沿岸道路が接続することで、既存の国道等の道路網と一体となって、港湾や空港とのネットワークが強化され、「富県宮城」を推進する地域産業の発展に大きく貢献しています。

今後は早期の全線4車線化などにより、更なる高速道路ネットワークの強化を図っていただき、常磐道が災害時や産業、物流、観光、医療などの多方面でますますの効果を発揮し、本県の「富県戦略」を強く後押ししていただけることを期待しています。



宮城県知事

むらい よしひろ

村井 嘉浩氏

常磐自動車道が全線開通した平成27年当時、震災と原発事故という未曾有の複合災害の影響により、依然として10万人を超える方々が避難生活を続けている状況にありました。

そのような中、常磐自動車道の全線開通は、被災地の再生、復興に向けた道筋をより確かなものとする、正に「希望の道」として当県の復興を大きく後押しするものでした。

また、避難指示の解除が進む中、常磐自動車道は生活環境の整備や避難されている方々の帰還促進を始め、産業や観光交流による地域活性化など、様々な面で重要な役割を果たしています。

医療面においても、今後、復興が進み、帰還者や移住者の増加が見込まれることから、医療機関とつながる常磐自動車道は「命の道」として、更に重要性が高まるものと考えています。

現在、国家プロジェクトとして進められている福島イノベーション・コースト構想の取組においては、福島ロボットテストフィールドなどの拠点施設が浜通り地域に整備され、ロボットやエネルギー、医療、航空宇宙などの関連企業が数多く進出しています。令和5年には、創造的復興の中核拠点として福島国際研究教育機構(F-REI)が設立されるなど、常磐自動車道はこうした拠点施設等の取組を力強く支える、必要不可欠な社会基盤となっています。

近年頻発する自然災害の激甚化・頻発化により、災害時における代替路線の確保、災害に強い高速道路の重要性が一層高まっています。常磐自動車道においては、暫定二車線区間が残っていますが、高速道路が持つ安全性や定時性などを始めとした機能の確保・強化のため、常磐自動車道の早期全線4車線化を期待しています。



福島県知事

うちばり まさお

内堀 雅雄氏

インタビュー：常磐自動車道の整備を実感



一般社団法人
東北経済連合会
会長
ますこ じろう
増子 次郎氏

常磐自動車道開通に向けた歩みを紐解きますと、東北経済連合会は、1986年に「第四次全国総合開発計画」に対する提言を行っていますが、その中で「首都圏一極集中の是正に向けた基盤整備のあり方」を掲げ、その具体策として、高速交通体系における「常磐・三陸沿岸縦貫自動車道（いわき～仙台～宮古～青森）」の整備を要望しました。その後、1987年の第四次全国総合開発計画策定を機に、福島県いわき市から宮城県仙台市までの区間が新たに計画路線に指定されます。こうして整備が進む中、2011年に東日本大震災が発生し、常磐自動車道も甚大な被害を受けました。しかしながら、迅速な道路啓開等により早期に復旧が完了し、整備完了区間においては緊急自動車の通行など災害対策としても、この道路は重要な役割を果たします。こうした苦難を乗り越え、常磐自動車道は2015年に待望の全線開通を迎えました。

以降、常磐自動車道は東北の太平洋側のネットワークを支える重要な幹線道路として、その存在は近年ますます大きくなっています。防災面においては、津波浸水区域よりも高台を通過する道路となるなど緊急時の「命の道」の機能が強化され、災害に強い国土づくり向けた役割を担っています。地域経済面では、企業立地や工場の新增設により、整備後の設備投資額が約2,300億円を記録し、沿線地域の求人倍率は全国平均を大きく上回りました。さらに今後は、道路の四車線化による機能強化、小名浜道路の整備による小名浜港へのアクセス向上、加えてF-REIを中心とした福島イノベーション・コート構想による産業集積が進むなど、地域にさらなる効果をもたらすことが期待されます。

このように常磐自動車道は10年の時を経て、従来の交通量に基づいた費用便益費による事業評価手法では計りえない様々な効果をもたらしていることを力強く示してきました。当会では、こうした交通ネットワーク整備に伴う「ストック効果」に着目し、今後も地域のエッセンシャルネットワークの整備に向けて、その重要性を広く訴えかけていきます。これからも常磐自動車道が多方面で効果を発揮し、三陸沿岸道路とともに太平洋側を結ぶ大動脈として東北経済の発展に大きく寄与することを期待しています。

コラム：常磐自動車道のある風景

常磐自動車道に関連する道路のさまざまな風景を、写真とともにご紹介します。

